

事務事業評価シート(多可町教育委員会)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課 社会教育／管理	課長名 内橋茂／萬浪佳隆	記入者 徳平みゆき
事務事業名		新規・継続 新規 ☐ 継続	事業開始年度 年度 ☐ H19以前	完了予定年度 年度 ☐ 未定
魅力あふれる(開かれた)図書館の充実				
事務事業の体系				
計画掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつむ、あったかいまち	(節) 2 学ぼう、活かそう	
	個別計画	(基本計画) 生涯学習の充実		
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)		
多可町図書館条例		☐ ソフト事業	施設の維持管理	
		☐ 義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		☐ 建設・整備事業	計画などの策定	
利用者に対し図書・雑誌等の閲覧・貸出や研究・調査の支援を行うと共に、郷土資料・行政資料等の永年保存に努める。		補助金の支給		有 ☐ 無 ☐
		委託 ☐	全部委託	一部委託
		☐ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
住民	住民	生涯学習の推進、生活を豊かにする

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>				会計名	一般	会計
細目名	図書館運営事業	細目名		細目名		
予算	款 項 目 節	予算	款 項 目 節	予算	款 項 目 節	
コード	10 5 3	コード		コード		

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	19年度 決算	20年度 見込	21年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト			25,775	22,872	21,562	
コスト の内訳	直接事業費	千円	25,775	22,872	21,562	
	所属内間接費					
	投入人員	人/年	5.00	5.00	5.00	
	正職員 嘱託員		0.36	0.41	0.40	
財源 内訳	国・県支出金	千円				
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源		25,775	22,872	21,562	

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標
1	カウンター業務	新刊購入や催しにより 利用の増加を図る。また、 来館者へは適切な 資料提供等により満足 して帰っていただくよう 努め、リピーターを増や す。	貸出冊数	冊	167,846	165,657	175,000
2	フロアワーク		(数値化不能)				
3	蔵書の充実		購入金額	千円	12,000	10,000	10,000
4	講座・イベント		開催回数	回	14	13	10
5							

(ソフト事業)

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [魅力あふれる (開かれた) 図書館の充実]			
成果指標(意図の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21 年度 目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
貸出冊数	冊	167,846	165,657	175,000	貸出冊数は年間1万冊増を目標とする。住民登録率は前年と同程度の伸びを見込む。
住民登録率	%	22.1	24.6	27.3	

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)							
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題			
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは		☐ 高い	☐ 高くない	☐ 把握なし		図書館は利用するほどに 便利な施設である が、未利用者には理解 されにくいいため、利用を 掘り起す必要がある。			
		緊急性は		☐ 高い	☐ 高くない	☐ 横ばい					
		利用者・対象者数は		☐ 増加	☐ 減少	☐ 把握なし					
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし					
妥当性	町の関与 の必要性	民間の事業(サービス)との競合は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし		有効利用のためには、 児童館などの蔵書も含め 一元管理が望ましいが、 システムの拡張が 難しい。			
		国や県の事業(サービス)との重複は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし					
		事業開始時から社会環境の変化は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし					
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし					
妥当性	サービス 水準の 妥当性	他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし		サービス向上には検討 の余地がある。			
		他課で類似の事業は		☐ ない	☐ ある	☐ あるが困難					
		他の事業と統合できる可能性は		☐ ない	☐ ある	☐ あるが困難					
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		☐ ない	☐ ある	☐ あるが困難					
効率性	手段・ プロセス の効率性	市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は		☐ ない	☐ ある	☐ あるが困難		サービス向上には検討 の余地がある。			
		事務事業を構成する業務に見直しの余地は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし					
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし					
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし					
有効性	目標の 達成度	受益者負担を見直す余地は		☐ ない	☐ ある	☐ 把握なし		図書館は知る権利を保障 する施設でもあるので、 行政が支えるべき である。			
		成果指標が明らかで		☐ ある	☐ ない	☐ 横ばい					
		前年より成果が上がって		☐ いる	☐ いない	☐ 横ばい					
		継続することによる効果は		☐ 高い	☐ 高くない	☐ 測定困難					
有効性	持続の 可能性	世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて		☐ いる	☐ いない	☐ 測定困難		図書館は知る権利を保障 する施設でもあるので、 行政が支えるべき である。			
		事業の休・廃止による住民への影響は		☐ 大きい	☐ 大きくない	☐ 測定困難					
		既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり			☐ 委託化は不可能		
		市場化テストの導入について検討する余地がある		☐ 市場化テストの導入を検討する余地はない		☐ 市場化テストの導入を検討する余地はない					
市場化の可能性											
改善の可能性				1.改善の余地はない				☐ 2.改善の余地がややある			
				3.改善の余地が多い				☐ 4.抜本的な見直しが必要			

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action>		今後の具体的な取り組み			
職場からの意見		今後の具体的な取り組み			
(施策を取り巻く環境)		(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか)			
農村部ほど、図書館は学生や暇人が行く所といった昔ながらの意識が根強い。図書館が暮らしに役立つ施設であること、税金の還元を受けやすい施設であることがあまり理解されていない。このため、現状では住民一部のための施設となっている。		利用者を確保するための手段として、図書館カード(利用登録)の登録の推進、また、図書館の情報発信に努める必要がある。			
(課題の解決についての提案など)					
図書館が暮らしに役立つ施設であることのPRを繰り返し行う。図書館まつりなどのイベントを通して未利用者の来館を促す。児童奉仕に重点を置くことで、将来の利用者を確保する。					
自己評価		3 (目標は達成されている)			
今後の方向性	1.重点的に継続	2.現状のまま継続	☐ 3.内容を見直しながら継続	4.縮小を検討	
	5.統合・連携を検討	6.休止・廃止を検討	7.終了・完了		